

GSJ 地質ニュース編集・発刊の方針

○新広報誌の掲載内容とポリシー（目的や対象など）

・産業技術総合研究所 地質調査総合センター（GSJ）の研究活動・業務内容ならびに関連事項を広く一般の方々に知っていただくことを目的とする。その対象者には、行政担当者、地質の専門家や学生、そして地質に興味を持つ一般の方々を想定。

・掲載内容は、GSJ の広報誌という観点から、GSJ に関連する研究・業務の紹介（プロジェクトの展望、成果などの特集号など）や、これらの理解を助けるための地球科学に関連した普及・啓発などの記事も含む。内容は大まかに以下の3点に分類される。

(1) 業務報告・研究紹介：産総研地質分野の研究や業務の紹介及び広報の記事。

(2) 総論・解説：産総研地質分野の研究に関することがらを体系的にわかりやすく解説する記事、社会に役立つような記事。

(3) 教育・啓発：地球科学の普及や啓発を目的とする記事。

・GSJ の広報誌として質の高い、読みやすく内容のある記事を掲載し、それに見合う評価を得るよう努める。そのために各プロジェクトなどで積極的な特集号の企画をお願いする。

・原則として GSJ に所属する職員等の投稿を受け付ける。OB や外部からの投稿については、依頼原稿という形で受け付けることも可能。GSJ 広報誌の編集方針と相容れない内容の場合は、受付を見合わせることもある。

○著作権

・新広報誌の著作権は、GSJ が有する。

○誌面構成

・新広報誌は、上記の掲載内容に沿った通常記事（4~6 ページ程度）とトピック的な短い記事（1 ページ程度の記事で、以下、レターと呼ぶ）からなる。

○誌面形態

・官公庁や博物館・大学などの図書室、図書館などで寄贈・交換図書として読んでもらうことを前提とし、紙印刷とする。

・紙印刷では、巻頭にカラーグラビア 4 ページを入れ、あとは原則モノクロとする。

・紙印刷の別刷を希望の場合は著者があらかじめ必要部数を申告し、受益者負担とする。

・紙印刷の出版と同時に WEB での PDF 配信も行う。PDF 配信は、全ページカラーとし、PDF での別刷希望も受け付ける。

・原稿規模は、通常の記事では、刷り上がりで 4 ページから 6 ページ程度が推奨される。一方、レターでは、500~1000 文字程度で、写真を 1~2 枚添付することが推奨される。

○発行頻度と年間ページ数見込み

・1 号で 32 ページ程度、年間 12 号（月刊誌）で、384 ページ程度をめざす。

○編集体制

・委員長、副委員長、及び 8 名の委員からなる編集委員会と、その事務的な部分を担う事務局からなり、地質標本館に事務局を置く。